

第10回 京都現代経済学ゼミナール募集要項

申し込みは、「申込書」に必要事項を記入し受講料をそえて申し込んでください。
 FAXでも申し込み出来ます（受講料は第1講義日をお願いします）。
 募集の定員は、60名です。（定員になり次第〳切ります）
 講義時間は、午後1時～5時（休憩も含まます）
 受講料は、11,000円（税込み）です。
 参考文献の注文の方は、申し込み用紙にチェックを
 『京都学習会館』（上京区堀川丸太町西一筋目上ル）です。
 電話（075）841-8141 FAX（075）821-3665

自転車・バイク・自動車の駐車場は
 ありません。二条城市営駐車場へお願
 いします。（自転車は会館の周りは住宅街で
 すので止めることは出来ません）

地下鉄丸太町駅・二条城前駅から
 『京都学習会館』まで歩いて10分以
 内です。



世界の構造変化をとらえる 第5弾!!

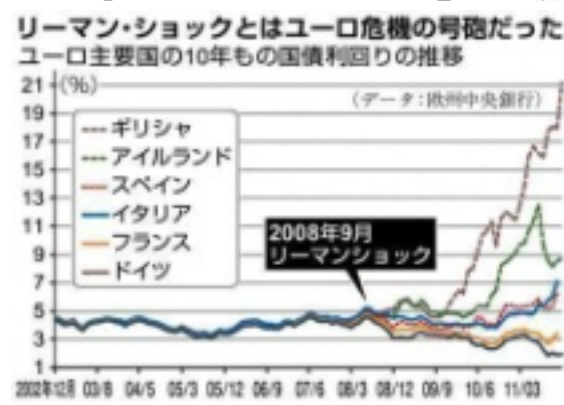
“EU”を問う

第10回京都現代経済学ゼミナール
 Coordinator 芦田文夫・立命館大学名誉教授

国名/格付け会社	ムーディーズ	スタンダード・アンド・プアーズ	フィッチ	信用格付け
米国	Aaa	AA+	AAA	Aaa/AAA 信用リスクが最小限
日本	Aa3	AA-	AA	Aa/AA 信用リスクが極めて低い
ユーロ圏				
オーストリア	Aaa	AA+	AAA	Aa/AA 信用リスクが極めて低い
ベルギー	Aa3	AA	AA+	Aa/AA 信用リスクが極めて低い
キプロス	Baa3	BB+	BBB	A/A 信用リスクが低い
エストニア	A1	AA-	A+	A/A 信用リスクが低い
フィンランド	Aaa	AAA	AAA	Aa/BBB 信用リスクが中程度
フランス	Aaa	AA+	AAA	Aa/BBB 信用リスクが中程度
ドイツ	Aaa	AAA	AAA	Aa/BBB 信用リスクが中程度
ギリシャ	Ca	SD	C	Ba/BB 相当の信用リスク
アイルランド	Ba1	BBB+	BBB+	Ba/BB 相当の信用リスク
イタリア	A3	BBB+	A+	B/B 信用リスクが高い
ルクセンブルク	Aaa	AAA	AAA	Ba/BBB 信用リスクが中程度
マルタ	A3	A-	A+	B/B 信用リスクが高い
オランダ	Aaa	AAA	AAA	Aa/BBB 信用リスクが中程度
ポルトガル	Aa3	BB	B+	Caa/CCC 信用リスクが極めて高い
				SD 選択的デフォルト

Kyoto Contemporary Economics
 (2012年2月21日作成) REUTERS

第10回京都現代経済学ゼミナール申込書	申込み日時	年	月	日
フリガナ:		性別		年齢
氏名:		男・女		才
現住所:				
職場・学園:				
労働組合名:	(全国単産名:)			
電話: 職場 ()	自宅 ()			



Seminar vol.10

申込先は...京都労働者学習協議会
 電話(075)841-8141
 FAX(075)821-3665

第10回現代経済学ゼミナール

「世界の構造変化をとらえる」第5弾 “EUを問う!!”
このせめぎ合いがどうなっていくのか「ルールある経済社会」を展望する日本の私たちにとっても大きな関心事

芦田文夫先生からのよびかけ

いま、金融危機が世界中に広がり、資本主義経済のゆきづまりが誰の目にも顕わになってきています。それは政治危機ともなって、昨年地球上の各地で噴出し、「ウォール街占拠」「アラブの春」そしてスペイン・ギリシアで数十万の「怒れるM（マドリード）5・15運動」と連鎖のように続いています。

「世界の構造変化」をこれほどリアルに感じとれる時代はないでしょう。ジャーナル誌上でも、2008年アメリカ「リーマン・ショック」から2011年「ヨーロッパ債務危機」へと波及しつつある経路が、1929年「大恐慌」のときとよく似ていて「それ以上の大収縮」を警告する特集が目立ち始めました（『エコノミスト』など）。

今年は、現代経済学ゼミナールの連続講座を「EU ユーロ危機」に焦点をしばって開くことにしました。EUはヨーロッパの経済・政治の安定と発展、統合促進の期待をになって出発し、ユーロも誕生いらい10年近くにわたり存在感を高めてきたかに見えました。しかし、「リーマン・ショック」いらい2009年末頃から「ソブリン（国家債務）・ユーロ危機」がギリシャ・アイルランド・ポルトガル・スペイン・イタリアへと波及してきました。いま、金融危機が財政危機に進んで、国家財政をめぐる統合化の新たな段階への制度化が課題となってきています。

今度の危機は、EUの構造上の要因だけでなく、過剰資金・資本の流通、制御不能なまでに肥大化した金融、世界的な金融化と投機化など、現代資本主義世界に共通する構造的危機の要因が根底に深く横たわっているといわれています。ドルを基軸とする国際通貨制度の全体、そしてアメリカの金融と財政の危機とのつながりからも検討を加えていく必要があるでしょう。

今回の危機はまた、EU内部における地域グループ間の格差の問題を鋭く浮上させました。西欧（ドイツとフランスを中心とする）と北欧、中欧5カ国、南欧4カ国とイギリス、バルトと東バルカン、などのインバランス問題といわれる

ものです。これには、経済だけでなく、文化・民族・国家の問題をも合わせた大きな歴史的視野からの考察が必要とされてくるでしょう。これからの経済的・政治的統合に、「国民国家」はどう関わっていくのでしょうか。

EUはこれまで、「市場原理主義」を野放しにさせるのではなく、人間と社会、環境と自然の側から公正な制御を加えていこう、という「社会的市場経済」、「人権、生活や労働、環境に関わるルール」、「企業の社会的責任論」などでの特色が目立ってきました。しかしいま「緊縮財政」で軒並み、賃金削減、リストラ、社会保障カット、消費税アップなどの攻撃が加えられようとしています。それが数十万の国民運動の反撃を引き起こし、どこでも政権交代が続出している原因になっているのです。このせめぎ合いがどうなっていくのか、「ルールある経済社会」を展望する日本の私たちにとっても大きな関心事です。好評を重ね定着してきたゼミナール形式で、月1回の日曜日の午後、じっくり講義を聴き討論を交して、大きな「世界の構造的変化」のいま現在を一緒に考えてみようではありませんか。

第10回現代経済学ゼミナール
「世界の構造変化をとらえる」第5弾 “EUを問う!!”

日程	テーマ	講師
4/1 日曜日 第1講義	EUの “危機の本質” 世界経済危機の深まりと新たな段階	星野 郁 立命館大学 教授
5/6 日曜日 第2講義	ドルとユーロ 通貨統合 「矛盾」の展開と金融危機	奥田 宏司 立命館大学 教授
6/3 日曜日 第3講義	ヨーロッパの歴史 “文化・民族・国家” EU（欧州連合）の条件とその合理性・展望を深く見る	望田 幸男 同志社大学 名誉教授
7/1 日曜日 第4講義	「ルールある経済社会」と 未来社会へのつながり EUの「社会的市場経済」「労働権・生存権」をめぐる	芦田 文夫 立命館大学 名誉教授